

立教大学学術推進特別重点資金（立教 S F R）
プロジェクト研究（自由プロジェクト研究）
2005年度研究【経過・成果】報告書

研究課題	アメリカに渡った日本の図像・文芸の研究—スペンサー・コレクション資料の調査および刊行		
研究代表者	所属・職名	氏名	
	文学部・教授	小嶋 菜温子 印	
研究組織	所属大学名等・職名	氏名	
	文学部・教授	渡辺 憲司	
	文学部・教授	加藤 定彦	
	文学部・教授	小峯 和明	
	文学部・教授	加藤 睦	
	文学部・助手	安原 眞琴	
恵泉女学園大学・人文学部 助教授	稲本 万里子		
文学部・博士課程後期	宮腰 直人		
文学部・博士課程後期	馬場 淳子		
文学部・博士課程後期	丹羽 みさと		
研究期間	2005 年度	～	2006 年度
研究経費	2005 年度	2006 年度	総計
	4000 千円	0 千円	4000 千円

研究の概要 (200～300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

本プロジェクト研究の目的は、海外にある貴重な日本の文化遺産を掘り起こし、その調査・研究成果を刊行することであり、日本古典籍資料、とくに日本関係の図像資料の宝庫であるニューヨーク公立図書館（ニューヨーク・パブリックライブラリー）のスペンサー・コレクションを調査対象とする。その蒐集の質の高さの一端は、日本の古典籍鑑定の権威である反町茂雄による同コレクション蔵書目録（昭和53）に示されるが、近年の増補コレクションも含めた詳細はいまだ明らかではなく、スペンサー・コレクション所蔵資料の調査と整理とその詳細な解題の刊行を本プロジェクト研究では企画している。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

〔図像〕 〔日本文化〕 〔国際〕

研究【経過・成果】の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

① 2005 年度本プロジェクト遂行の経過を記す。

- 6 月 23 日 第一回会議 (年間計画および各チームごとの調査方針について)
- 7 月 26 日 第二回会議 (スポンサー・コレクション調査資料の選別と調整)
- 8 月 20 日 第三回会議 (関連調査資料の選別と調整)
- 9 月 2 日～9 月 13 日 (現地調査)
- 9 月 20 日 第四回会議 (調査報告*宮腰直人・馬場淳子、データ・ベース準備)
- 10 月 18 日 第五回会議 (調査報告*馬場淳子・丹羽みさと、データ・ベース準備)
- 11 月 1 日 第六回会議 (調査報告*小嶋菜温子・渡辺憲司、データ・ベース準備)
- 11 月 10 日 第七回会議 (調査報告*小峯和明・加藤睦、データ・ベース準備)
- 11 月 25 日 第八回会議 (調査報告*安原真琴・加藤定彦、データ・ベース準備)
- 12 月 10 日 第九回会議 (調査報告*宮腰直人・馬場淳子、データ・ベース準備)
- 12 月 25 日 第十回会議 (論文の報告会と検討会*渡部憲司・安原真琴)
- 1 月 8 日 第十一回会議 (論文の報告会と検討会*馬場淳子・丹羽みさと)
- 1 月 13 日 ミニ・シンポジウム—スポンサー・コレクション資料をめぐって
 - ① 松平定信の『桜狩紀行』について (渡辺憲司・安原真琴)
 - ② 林忠正の印と資料 (丹羽みさと)
 - ③ 金平の<地獄破り>について (宮腰直人)
 - ④ とりかへばやものがたりについて (馬場淳子)
- 1 月 28 日 第十二回会議 (論文の報告会と検討会*稲本万里子・小嶋菜温子・加藤定彦)
- 2 月 20 日 第十三回会議 (論文の報告会と検討会*稲本万里子・小峯和明・加藤定彦)

② 2005 年度調査の概要は以下のとおりである。

9 月 2 日から 9 月 13 日の期間を設けて、メンバー 9 名 (小嶋菜温子・渡辺憲司・小峯和明・加藤睦・安原真琴・稲本万里子・宮越直人・馬場淳子・丹羽みさと) が渡米、ニューヨーク・パブリックライブラリを中心として各自調査に携わった。パブリック・ライブラリでは、本プロジェクトの目的とするスポンサー・コレクションの第一回目の調査を行った。関連調査として、メトロポリタン美術館において、林忠正の春雨集の調査をはじめとする資料の調査を行った。また、小嶋・安原・丹羽の 3 名は 9 月 9 日から 13 日にかけて、シカゴにおいてシカゴ・アート・インスティテュート (シカゴ市立美術館) での事前調査を行った。なお、加藤定彦は、国内関連資料の調査と、スポンサー・コレクション資料の吟味・鑑定のアドバイザーを務めた。

③ 2005 年度スポンサー・コレクションでの調査の成果は以下のとおりである。

同コレクションの閲覧は午後 4 時間のみで 4 人程度までとの制限があるなかで、2005 年度の調査対象として事前に閲覧申請したものについての調査を行った。2006 年 10 月にニューヨークで開催予定のスポンサー・コレクション展のために閲覧不可のものについては、2006 年度の調査となる [2007 年 1 月予定]。

※ 各人の調査書名に関しては、公開を差し控える

また、調査済み資料のデータ・ベース化作業については、プロジェクトの組織図に基づく各チームごとに、上記の会議日程以外の時間を使って随時行っており、2006 年度調査に引き継ぐ手筈である。